

# SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

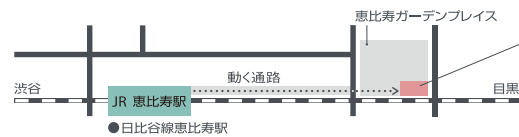
2012	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
6	 光の造形～操作された写真～ 5月12日(土)～7月8日(日)	 川内倫子展 照度 あめつち 影を見る 5月12日(土)～7月16日(月・祝)	 世界報道写真展2012 6月9日(土)～8月5日(日)	最新のスケジュールは ホームページを ご確認ください。
7				 『ピーターラビットと仲間たち ザ・バレー』 7月14日(土)～8月3日(金)
8	 自然の鉛筆 技法と表現 7月14日(土)～9月17日(月・祝)	 田村彰英 夢の光 7月21日(土)～9月23日(日)	 鋤田正義展 SOUND&VISION 8月11日(土)～9月30日(日)	
9				
10	 機械の眼 カメラとレンズ 9月22日(土・祝)～11月18日(日)	 操上和美 - 時のポートレート ノスタルジックな存在に なりかけた時間。 9月29日(土)～12月2日(日)	第23回日本写真作家協会会員展 第10回JPA公募展 10月6日(土)～10月21日(日)	
11				
12	 《雪の中で(1)》「村へ」より 1974年	 1976 and 2005, Kamakura, Japan 日本の新進作家展vol.11 この世界とわたしのどこか 12月8日(土)～1月27日(日)	写真新世紀東京展2012 10月27日(土)～11月18日(日)	
2013				
1	 いつか見た風景 北井一夫写真展(仮称) 11月24日(土)～1月27日(日)		第13回 上野彦馬賞 11月24日(土)～12月2日(日)	
			 作家不明 《腕木通信機》1840年代 映像をめぐる冒険vol.5 記録としての映像(仮称) 12月11日(火)～1月27日(日)	※スケジュール・展覧会タイトル 等は予告なく変更される場合 があります。最新の情報は ホームページをご覧ください。

## ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日)  
※ただし10月1日(月)都民の日は開館し、翌10月2日(火)は休館、年末年始(12月29日～2013年1月1日)
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

## 割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。  
詳しくはチケット売り場でおたずねください。



## 東京都写真美術館

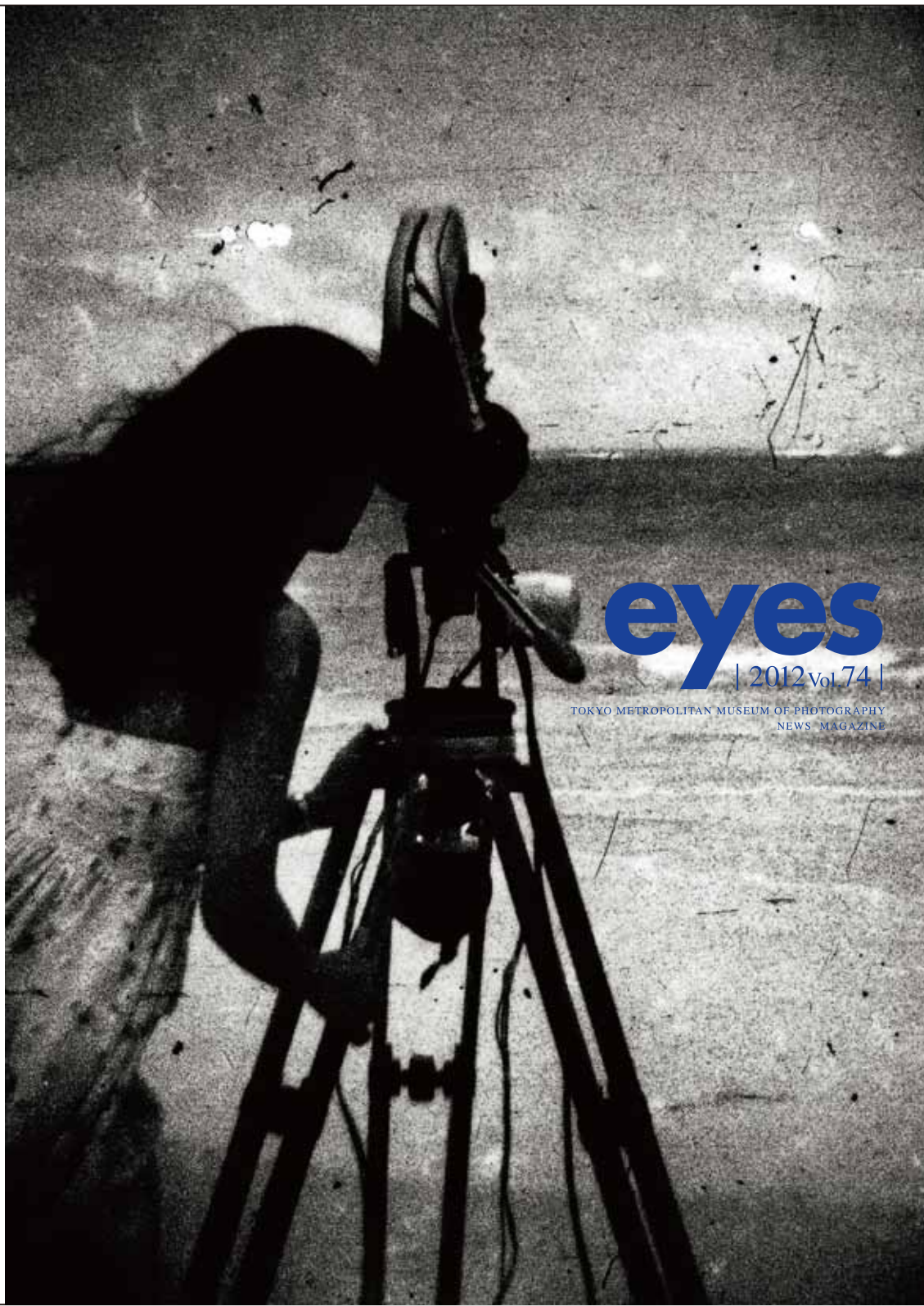
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3  
恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099  
<http://www.syabi.com>

携帯サイトはこちら



※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ12」74号 ●発行日：2012年6月8日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係  
●印刷・製本：JT印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2012 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



**eyes**  
| 2012 Vol.74 |  
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY  
NEWS MAGAZINE



《明日を見る家族》、シリーズ《陽と骨》より



左上)《無題》、シリーズ《陽と骨》より 左下)《夢を見る猫》、シリーズ《陽と骨》より 右)《水河》、シリーズ《陽と骨》より  
表紙)《海を見る》、シリーズ《陽と骨》より

TOPICS 平成24年度 東京都写真美術館自主企画展

# 操上和美 時のポートレイト

ノスタルジックな存在になりかけた時間。



# KURIGAMI KAZUMI

たとえ写真家の名を知らなくても、誰でも一度ならず彼の写真を見たことがあるのではないだろうか。1970～80年代には、日産のフェアレディZ、ソニーの“ジャッカル”、サントリーの“オールド”の広告写真や、井上陽水、大江健三郎のポートレートなど、操上和美は世に広く知られる傑作を数多く手がけてきた。そんな写真界の鬼才が、50年以上、日常的に撮り続けてきた作品群で個展を開催する。『陽と骨』『陽と骨II』『NORTHERN』『Diary』など、本展に出展予定の作品や、写真に対する思いを語ってもらった。

1960～70年代は以後の方向を決定づけるようなインパクトのある写真がたくさん出てきた時代です。操上さんは1961年に東京総合写真専門学校を卒業された後、『住まいと暮らしの画報』編集部を経てセントラルスタジオの杉木直也氏に師事されたのですか？

「当時、『洋酒天国』というサントリーの機関誌があって、それを作家の開高健さんやイラストレーターの柳原良平さんと一緒に制作していた杉木直也さんが、新しくスタジオを設立するということで紹介していただき、アシスタントとして入社したんです。普通は入社してすぐには撮らせてはもらえませんが、セントラルスタジオでは写真家が杉木さんと僕の二人だけだったから、僕も会議から参加させてもらって、良い企画を出せば、どんどん撮らせてもらえるという環境でした。今思えばずいぶん生意気だったと思いますけど、北海

道を出て上京した時には故郷を捨てるくらいの覚悟だったし、若くて気もはやっていたから、臆せずどんどん意見を出していましたね。そこでは写真だけではなく、企画やビジュアル全体から発想する考え方とか、コピーライティングと写真の両方から見る視点など、広告写真の基礎を学んだと思います」

65年に独立されましたが、写真のみならず、企画・演出・コピー、そして映像制作までひとりで手がける写真家は大変少なかったとかがいました。

「初めて仕事で撮影した映像が、ミツワ石鹸のCMでした。まだモノクロ映像でしたから綺麗に映らないという理由で白い泡はダメ、もちろん女性の裸も当然NGという時代でしたが、あえてそれに挑戦したんです。泡風呂から

女性がサッと立ち上がった瞬間にバスタオルでまかれるという内容で、もちろん裸は映ってはいませんが(笑)、それが大ヒットした。操上だったら全部一人に任せられるということになり、一気に仕事が増えて忙しくなりました。その時、このままだと自分の写真も撮れずに終わるのではないかと危機感を感じて、常日頃からスナップを撮るようになったんです。寝る時間もないくらいでしたが、海外への移動途中とかロケの合間に写真を撮っていました。それが自分の運動であり、感覚のトレーニングだと思っていたわけです。写真家なんだから写真を絶対に自分から離さないという気持ちが強かったですね。写真を撮ることは、見たり触ったりすることと同じように、自分の体の内に持っている生理感覚で行う行為なので、広告写真だろうがドキュメンタリーだろうが感覚的には同じです。

(一般に)受ければ良いということではなくて、自分は何を触りたいのか、何に興味があるのかということから発想するわけです」

デジタル技術が出てきたことで感じる変化はありますか？

「広告などの場合、アナログのカメラだとフィルムがなくなったら間髪入れずに次のカメラに持ち替えて、最後まで被写体とのセッションを途切れさせずに終わられますが、デジタルカメラだとどうしても撮影中に撮った画像を確認してしまうんですね。時には、カメラをケーブルでつないで画像をモニターに出し、アートディレクターとかクライアントなど、撮られている本人も含めて、全員で見たりもする。すると作業も止まるし、テンションも下がってしまう。つまり、攻め込みが足りなくなってしまうんです。僕は、技術の違いというよりも、そういう時間や撮影中の緊張感のあり方が変わってしまうことのほうが、影響を大きく感じますね」

1970年より撮りためてきた写真から357点を選んでまとめた作品集『Diary』(2005年)は、印刷ではなくコピー機を使って製本されていますね？

「いわば日記のようなものですから、豪華なものを作ろうという発想はもともとなくて、試しに自分の家にある古いコピー機でやってみたら、すごく良かった。コピー用紙は時間が経つとだんだん剥げて色あせてくるから、それがいかにも古い日記帳みたいになったんです。ところが、今のコピー機は進化していて、コピーだか印刷だかわからないくらい綺麗なんです。だから、わざわざ悪くなるように機械操作をして、質の悪いコピーをとったんです」

普段使いのカメラや玩具カメラで日常を撮影した「陽と骨」(1984年)の第二弾として、ポラロイド



〈ノバスコーシア〉、シリーズ〈NORTHERN〉より



〈冬の庭〉、シリーズ〈NORTHERN〉より

SX-70で撮影した写真をまとめた作品集「陽と骨II」を昨年に発刊されました。

「カメラは何でも良いんです。1ドルくらいの玩具カメラで撮った写真のほうが、高性能なカメラで撮った写真よりずっとインパクトが出て良くなることがある。たとえ印画紙やフィルムがなくなったとしても、自分の写真は撮れる自信があるし、自分の感覚さえ衰えなければ良いことだと思っています」

では、プリントする時の暗室作業はどんな感覚なんですか？

「現像してみると、自分が愛して撮ったものがそっくりそのまま浮かび上がってきて感動することもあるし、逆にあんなに手応えがあったのに、全然だめだという時もある。だから、暗室は反省する場所でもあるし、夢見る場所でもありますね。また、なかなか思い通りにならなければ、やり方を思いきり変えてみると、一気に良くなる時もあるんですよ。暗室作業は、自分でやったほうが絶対楽しいし、もう一歩前に行けるプロセスだと思います」

今回の展覧会タイトルにはどんな思いが込められているのでしょうか？

「長いタイトルでしょ(笑)。時間について考えてみると、鉄でさえ腐食して錆びていくわけですから、生物だろうが事物だろうが、みんな自分の時間を持って存在しています。そういう意味で、現在は死に向かう旅の過程にある

とも言える。だから、自分が撮った写真は「時のポートレート」だと勝手に思っているんです。加えて、全てのものは写真になることによって、もう一つ違う写真としての時間を所有することにもなるわけです。しかも、写真のほうが生きていくかもしれない。そういう時間のずれのようなことを考えると、生きている我々の存在がノスタルジックなものにも思えてくる。懐かしいという意味ではなく、そういう現実と写真の時間がずれていく感覚をこの展覧会のタイトルには込めたつもりだし、観ていただく方々が写真そのものや僕の作品について考える糸口になれば良いなと思っています」

聞き手：丹羽晴美(東京都写真美術館学芸員) 構成：富田秋子  
2012年4月インタビュー



〈夏の庭〉、シリーズ〈NORTHERN〉より

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引

9月29日(土) → 12月2日(日)

## 平成24年度 東京都写真美術館自主企画展 操上和美 - 時のポートレート ノスタルジックな存在になりかけた時間。

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 朝日新聞社  
□ 協賛：東京都写真美術館支援会員 他

日産「フェアレディZ」、サントリー「オールド」をはじめとするコマースフォト、井上陽水のレコードジャケット、大江健三郎のポートレートなど、1970～80年代のメディア芸術を一新した広告写真界の鬼才、操上和美(1936～)。広告表現の新たな可能性を切り拓き、現代に至るまでコマース、グラフィック、エディトリアル等の表現を牽引し続けてきた彼は、映画『セラチンシルバーLOVE』では視覚表現の映像化にも挑戦しました。本展は、そんな操上が1970年

代から撮り続けてきた写真作品を一堂に集め、その視覚世界に肉迫。写真家の視線と感性を表出した『陽と骨』(1984)、故郷へと続く旅を通じて観る者を熟成された時間や記憶へと誘う『NORTHERN』(2002)、簡易な複写法で身近な風景を「視覚」へと変換した『Diary』(2009)、そして2010年発表の『陽と骨II』(2010)など、鮮烈な美意識に貫かれた作家の表現を通じて、写真表現や写真というメディアの本質を見つめます。

※担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00～  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

※展覧会関連イベントを予定しています。  
※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

5月12日(土) → 7月16日(月・祝)

平成24年度 東京都写真美術館自主企画展  
**川内倫子展 照度 あめつち 影を見る**  
 KAWAUCHI Rinko Illuminance, Ametsuchi, Seeing Shadow

一般 700(560)円  学生 600(480)円  中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/産経新聞社  助成：公益財団法人アサヒビル芸術文化財団  
 協賛：富士フィルム株式会社/東京都写真美術館支援会員  協力：アサヒビル株式会社/スガアート/フルハウス/Fondation d'entreprise Hermès  後援：サンケイスポーツ/タ刊フジ/フジサンケイビジネスアイ/iza!/SANKEI EXPRESS



対談/原田郁子(音楽家)×川内倫子  
 2012年6月22日(金) 18:30~20:00  
 【会場】1階ホール(定員190名)  
 【対象】本展覧会の半券をお持ちの方。  
 【受付】先着順/当日午前10時より1階受付にて  
 入場整理券を配布します。

担当学芸員によるフロアレクチャー  
 第1・3金曜日 14:00~  
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、  
 会場入口にお集まりください。

無題 シリーズ〈あめつち〉より 2012年

2000年以降を代表する写真家として国際的に活躍する川内倫子。本展は、2011年発表の『Illuminance(イルミネンス)』、初公開となる最新作『あめつち』、『影を見る』から、写真作品と映像作品を展示し、川内の作品世界の魅力と本質、そして新たな展開に迫ります。

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

5月12日(土) → 7月8日(日)

平成24年度東京都写真美術館コレクション展  
**光の造形 - 操作された写真**  
 Creating with Light: The Manipulated Photograph

一般 500(400)円  学生 400(320)円  中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：東京都 東京都写真美術館  協賛：凸版印刷株式会社  協力：平凡社

写真技術が輸入された幕末の時代、人々はphotographyを、真を写す「写真」と表しました。しかし写真の本質を考へるならば、photo(光)でgraph(画)を創る「光画」と呼ぶべきかもしれません。本展は当館の約2万8000点におよぶ

コレクションの中から、加える(彩色など)、組み合わせる(コラージュ、フォトモンタージュ、多重露光など)、切り取る(トリミングなど)等の技法を使った名作120点を展示。その創意工夫から、今につながる写真家の思いを体感します。

担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00~  
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

奈良原一高  
 <静止した時間#39> 1964



B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

6月9日(土) → 8月5日(日)

## 世界報道写真展2012

一般 700(560)円  学生 600(480)円  中高生・65歳以上 400(320)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：世界報道写真財団/朝日新聞社  共催：東京都写真美術館  後援：オランダ王国大使館  
 公益社団法人日本写真協会/公益社団法人日本写真家協会  協賛：キャノンマーケティングジャパン株式会社

2011年ー。この年は多くの人々にとって、「東日本大震災」による惨事とともに記憶され続けることになるでしょう。大津波による被災とともに、福島第一原発の事故はとりわけ大きな禍根を残し、多数の住民や避難者が人生の岐路に立たされています。今年で55回目を迎える「世界報道写真展」は、124の国と地域、5247人の応募の中から厳選された報道写真、約170点をご紹介します。震災の爪痕を撮影した7名の写真家による作品もあります。大賞には、中東のイエメンで反体制デモの最中に傷ついた息子を抱きかかえる女性を写したサムエル・アラランダ氏の作品が選ばれました。中東、北アフリカ各国での民衆運動やノルウェーでの大量殺人事件、密猟によって角を狩られるサイなど、今年の展示作品も貴重な記録であると同時に見る者に強く訴える作品ばかりです。

上)「一般ニュース」の部 組写真2位

パオロ・ベレグリン(イタリア) マグナムフォトからツァイト・マガジン 日本(=4月14日)

下)「一般ニュース」の部 単写真3位 恒成利幸(日本)朝日新聞



世界報道写真大賞2011 サムエル・アラランダ(スペイン)ニューヨーク・タイムズ紙向け

日本人受賞者3人によるトーク

東日本大震災と大津波による爪痕を撮影した3人の日本人受賞者によるトークを開催します。各人が独自の視点で切り出した作品について、体験談とともに語っていただきます。

2012年6月17日(日) 14:00~16:00

【出演】恒成利幸氏(朝日新聞社)、手塚耕一郎氏(毎日新聞社) 千葉康由氏(AFP通信社)

【会場】東京都写真美術館1階ホール(定員190名)

【受付】イベント当日10時より1階受付にて入場整理券を配布します。

【開場】13時15分~ 整理番号順入場/自由席

【対象】本展覧会の半券をお持ちの方

※詳細は<http://www.asahi.com/event/wpjh>をご覧ください。

第5回 写実フォトドキュメンタリー・ワークショップ

◎2012年7月14日(土)~16日(月・祝)

フォトジャーナリズム、フォトドキュメンタリーの現場を学べるプログラムです。

【講師】Q.サカマキ(写真家、WPP07受賞者、NY在住)、外山俊樹(『アエラ』フォトディレクター)

【定員】20名 ※お申込み多数の場合は応募動機を参考に選考させていただきます。

【参加費】20,000円 【募集締切】2012年6月22日(金)

※詳細はホームページ(<http://www.syabi.com>)をご覧ください。

フォトドキュメンタリー・ワークショップ 公開レヴュー

2012年7月16日(月・祝) 15:00~18:00

Q.サカマキ氏の作品と第5回写実フォトドキュメンタリー・ワークショップのプレゼンテーションを公開レヴューします。

【会場】東京都写真美術館1階 アトリエ(創作室)

【開場】14時30分~ 【定員】約50名(当日先着順/自由席)

【対象】本展覧会の半券をお持ちの方

※詳細はホームページ(<http://www.syabi.com>)をご覧ください。

# 田村彰英

Tamura Akihide Exhibition: Light of Dreams

# 夢の光

当館では、日本の現代写真の第一線で活躍し続ける田村彰英の個展「夢の光」を開催いたします。田村は、1960年代後半から国内の米軍基地を撮影した〈BASE〉が、その社会的・政治的文脈を排除したきわめて感覚的な映像として注目されました。近年は、変容が進む都市の景観を記録したシリアスな作品を精力的に発表し続けています。展覧会に寄せる言葉から作家の今を探ります。

7.21(土) → 9.23(日)



## 〈夢の光〉に寄せて 田村彰英

### 初心

私が、子どもだった頃、アメリカは憧れの国だった。テレビドラマの西部劇や、黄金の50年代、ホームドラマが輝いていた時代、アメリカに対する憧れは増すばかりであった。飛行機が好きだったの、BASE「YOKOTA」や、ATSUGI「YOKOSUKA」の存在を、飛行機の雑誌から知ることになった。東京西部の武蔵野の雑木林と麦畑に囲まれた広大な、YOKOTA BASEの白フェンスと、緑の芝生のアメリカの町と、滑走路の逃げ水に浮かぶ戦闘機のある空間が不思議に思えた。航空雑誌を見て、マムカメラとコダックのエクタクロームで撮影された美しい描写に魅了され、いつかカメラマンになりたいと思った。写真学校に通い始め、さらにBASEへ関心が深まった。

写真教育の中で、BASEが米ソ核戦略の緊張感の狭間に存在することを知った。あまりにも美しく、不条理な戦闘機を目の前にして、私の気持ちは揺さぶられた。核のボタンで、一瞬にして世界が消えてしまう恐怖と、エキゾチックで不思議な憧れというBASEの矛盾が、私の心を揺らしたのだ。

### 困難な時代

東日本大震災、原発事故など歴史上まれに見る困難な時代にプロ写真家として、すべての写真を作る人の意識として、無意識として、現実の状況を考えざるを得ないと私は思っている。本来、写真とは速報性、報道性を内包した芸術であると思う。

「写真とは自分の心を写す鏡であり、自分が社会を見るための窓である」(MIRRORS AND WINDOWS/1978/MOMA刊) ニューヨーク近代美術館の写真部門ディレクターだった故ジョン・シャーフスキー氏の名言を思い出す。この言葉は、今回の写真展のテーマでもある。現代の厳しい高度管理社会では、テーマ、主題、思想は、写真という表現手段を使い、いかに生きていくか、正しく生きていくかの方法を見届けるための芸術手段であると思うからである。私は心の混雑と矛盾の暗黒のあなたの光明(夢の光)を探し続けている。

### 輝ける誤解をめざして

暗黒のあなたの光明とは——。私の作品(家)の中の落雷の光、BASEの逃げ水に浮かぶ戦闘機の輝き、被災地に降り注ぐ光、福島第一原発の瓦礫に降り注ぐ光りに対する集積感かも知れない。困難と混乱のまま、何も解決出来ない苛立ちの感情を今回の写真展で表現したかった。



### 2階展示室 | 友の会無料 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引

一般600(480)円 / 学生500(400)円 / 中高生・65歳以上400(320)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:東京都 東京都写真美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会 □助成:芸術文化振興基金 □協賛:ライオン株式会社 / 清水建設株式会社 / 大日本印刷株式会社 / 株式会社損害保険ジャパン / 日本テレビ放送網株式会社 □協力:日本カメラ社

### 作家とゲストによる連続対談 各回とも14:00-15:30

- 8月4日(土) 『「カメラ毎日」とコンボラの時代』 前田利昭(『日本カメラ』編集長)、上野 修(写真評論家)
- 8月11日(土) 『売れる写真、新しい写真表現』 町口 寛(アートディレクター)、町口 景(アートディレクター)
- 8月25日(土) 『写真を読む、写真を楽しむ』 三浦せん(作家)

- 1)シリーズ「家」より 1968年6月22日
- 2)名もなき風景のためにより 気仙沼 2011年
- 3)名もなき風景のためにより 陸前高田 2011年 4)BASEより 横須賀1967年

### 作家とゲストによるトーク&ギターライブ 「ライカとクラシックカメラの夕べ」

9月7日(金) 18:30-20:00  
永田 徹(ISO/TC42(写真)国際エキスパート)、板井公規(ギタリスト)  
【対象】展覧会チケットをお持ちの方  
【受付】当日10:00より当館1階受付にて整理番号つき入場券を配布します。  
【会場】2階ラウンジ(定員50名)

担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

3F

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引

3階展示室

Exhibition Gallery

平成24年度 東京都写真美術館コレクション展

## 自然の鉛筆 技法と表現

2012.7.14(土) → 2012.9.17(月・祝)

## 機械の眼 カメラとレンズ

2012.9.22(土・祝) → 2012.11.18(日)

- 一般 500(400)円  学生 400(320)円  
 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料  
 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催:東京都 東京都写真美術館  協賛:凸版印刷株式会社  
 協力:平凡社

当館では毎年テーマを設けて、コレクションから選りすぐられた名作をご紹介します。今年のテーマは写真における「表現と技法」です。黎明期から現代まで、学芸員が作品に秘められたストーリーを紡ぎながら、多彩な表現をご紹介します。世界でたったひとつの作品や貴重なオリジナルプリントなど、展示室でしか鑑賞することのできない美しい名品をお楽しみください。

## 関連書籍のご案内

## 「光と影の芸術 — 写真の表現と技法」

平凡社刊 定価 2,625円(税込)

本年度に開催されるコレクション展「光の造形 — 操作された写真」(5Pで紹介)、「自然の鉛筆 技法と表現」、「機械の眼 カメラとレンズ」の各展より主な出品作品と担当学芸員のテキストを掲載した関連書籍です。



- 1) 赤と緑、モデナ フランコ・フォンタナ 1977 銀色素漂白方式
- 2) 「アジャンの風景、木と水の流れ」 ルイ・デュコ・デュ・オーロン 1872年 エリオクロミイ
- 3) ヌード エドワード・ウェストン 1936 ゼラチン・シルバー・プリント
- 4) 植物の葉 「自然の鉛筆」より ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット 1844年 フォトジェニック・ドローイング
- 5) サン・ラザール駅裏 アンリ・カルティエ=ブレッソン 1932 ゼラチン・シルバー・プリント
- 6) 下から見上げた建物 アレクサンドル・ミハイロヴィチ・ロトチェンコ 1925 ゼラチン・シルバー・プリント
- 7) ペッパー No.30 エドワード・ウェストン 1930 ゼラチン・シルバー・プリント

## 自然の鉛筆 技法と表現

ダゲレオタイプ(1839年)とカロタイプ(1840年)のふたつの写真術が発表されて以来、写真は常に「光学」と「化学」の変遷によって表現の幅を広げてきました。本展では、写真における「化学」に焦点を絞り、プリント技法の変遷と表現、さらに印画紙の古典技法と現代表現や、モダニズムにみるカメラレス・フォトグラフィなどに注目。世界初のカラー写真『アジャンの風景、木と水の流れ』をはじめ、珠玉の名品約160点を一堂に展示します。デジタル写真の浸透によりフィルムを知らない世代も増えている昨今、写真技法の変遷と、写真にしかできない表現の豊かさは、これから写真がどこに向かうのかという問いにヒントを与えてくれることでしょう。



## 主な展覧会構成

- 紙の印画(タルボットからはじまる複製芸術の進化)
- 写真製版(写真の印刷技術とオリジナル性)
- 金属・ガラス印画(世界でひとつだけの写真)
- フィルム(高感度の追求)
- 暗室技法(カメラを使用しない印画など)

☒ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00~  
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

## ☒ 関連ワークショップ

プラチナ・プリントワークショップ(7月7日・8日)のほかに、8月にも関連ワークショップを開催します。詳細は決定次第ホームページで発表します。

## 機械の眼 カメラとレンズ

1920~1930年代における近代写真は、カメラとレンズ、さらには感光材料が持つ機械性によって展開されました。絞りを最小限にすることでレンズの描写力を極限まで追求したエドワード・ウェストン。ライカ・カメラを駆使して、現実の瞬間を切り取ったアンリ・カルティエ=ブレッソン。極端なアングルで新しい現実への視覚を示したアレクサンドル・ロトチェンコ。彼らの作品はまさに写真にしかできない表現です。本展では19世紀から現代に至る、「カメラ」という視覚装置ならではの多彩な表現を、コレクション作品と資料から紹介。写真表現の可能性が何によって支えられているのか、カメラを持っていることが人間にどのような可能性をもたらすのかを探求します。



## 主な展覧会構成

- シャープ・フォーカスとソフト・フォーカス
- パン・フォーカスとディファレンシャル・フォーカス
- レンズの視覚 — 広角レンズと望遠レンズ
- カメラ・アングルの解放 — 俯瞰撮影と仰角撮影
- 時間 — 長時間露光 / プレ / 瞬間
- 人工光  未知の世界へ  特殊効果

☒ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00~  
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

## ☒ 関連イベント

※詳細は決定次第ホームページで発表します。

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

8月11日(土) → 9月30日(日)

# 鋤田正義展 SUKITA MASAYOSHI RETROSPECTIVE SOUND&VISION

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催: 鋤田正義展実行委員会 □ 共催: 東京都写真美術館 □ プロデュース: 立川直樹  
□ 協賛: Volkswagen / 金鳳堂 / キリンビール株式会社 / 東京リスマチック株式会社 / 金沢工業大学



デヴィッド・ボウイ、T.REXのマーク・ボラン、YMO、布袋寅泰をはじめとする国内外のミュージシャンから圧倒的な支持を受け、広告写真、テレビコマーシャル、映像作品など幅広いフィールドにおいて常に第一線で活躍し続ける写真家、鋤田正義(1938~)。デヴィッド・ボウイが冷戦下のベルリンで録音した名盤『LOW』に収録された「SOUND & VISION」を冠した本展は、1970年代から現在までボウイと深い信頼で結ばれてきた鋤田正義の全仕事を、300点以上の作品から俯瞰する回顧展です。鋤田の作品は、高校生だった1956年頃に撮影した

母親の写真から始まり、被写体はリー・モーガンなどのジャズ・ミュージシャン、寺山修司の天井桟敷など、ニューウェイヴのミュージシャンたちから現代の俳優やアーティストに至るまで多岐にわたり、撮影した場所も世界中の都市にまたがり、それはビートニックのような風貌をした鋤田の永遠に終わることのないロードムービーといえるかもしれません。常にカルチャーと並走し、自らシーンに入り込んで撮影された写真の数々。それらは時代の記録であるとともに、時代を超えるパワーと、ボウイが「SOUND & VISION」で示唆した“驚き”に満ちています。



3

## 鋤田正義(すきたまさよし) biography

1938年福岡県に生まれる。大阪の日本写真専門学校卒業後、棚橋紫水氏に師事。広告代理店大広を経て'65年に上京、デルタモンドに入社。メンズ・ファッションの仕事をする。'60年代にAPA、ADCなど受賞。'69年のウッドストックのコンサート以来、サブ・カルチャーに興味を持つ様になり、ニューヨークやロンドンへ撮影に出かける。「T.REX」写真集他多数、2012年、「BOWIE×SUKITA Speed of Life 生命の速度」、忌野清志郎写真集「SOUL」出版。広告・音楽・映画などの仕事で今日に至る。

4



5

1) YMO 1979年 2) JAZZ(広告) 1968年 3) デヴィッド・ボウイ 1973年 4) 母 1958年  
5) T.REX 1972年 6) 東京スカイツリー 2012年 7) T.REX 1972年

### ※ 関連トークイベント「THE SHOOT MUST GO ON」

【出演】 鋤田正義×立川直樹(プロデューサー)  
【日時】 9月15日(土) 14:00~15:30 【会場】 1Fアトリエ(定員70名)  
当日10時より館内1階総合受付にて本展覧会の半券をお持ちの方に整理券を配布致します。

※8月25日(土)~9月17日(月・祝)に渋谷PARCOでも写真展が開催されます。  
「KIREI(きれい)」をテーマに60~70人の等身大ポートレートを展示します。  
<http://sukita.jp> ◎お問い合わせ≫パルコミュージアム 03-3477-5873



7

Film

『ピーターラビットと仲間たち ザ・バレエ』

永遠のベストセラー“ピーターラビットの絵本シリーズ”を実写化したバレエ映画の傑作。

イギリスの名振付家フレデリック・アシュトンが、英国ロイヤル・バレエ団のダンサーたちと動物たちの着ぐるみを着てユーモラスかつ華麗に舞う。セリフがなく、音楽と踊りだけで表現した児童文学の世界は、子供から大人まで誰もが心を奪われる。



T&Kテレフィルム 03-3486-6881

上映スケジュール: 2012年7月14日(土)~8月3日(金)
休映日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
上映時間: 10:30/12:30/14:30 ※本編86分
料金: [当日券]一般(学生含む)2,300円(税込)/親子ペア2,500円(税込)/小中高校生800円(税込) ©STUDIOCANAL,2011

1F 『CAFÉ BIS (カフェ・ビス)』オープン!

お問い合わせ: Tel.03-3280-3279

5.22 RENEWAL OPEN



ミュージアムショップ“NADiff x10”もスペースを拡大しました。写真集もさらに充実し、ゆったりとお選びいただけます。

PICK UP

川内倫子展に合わせて、当店オリジナルのペーパーウェイトを作りました。作品がいつも身近で楽しめます。



ペーパーウェイト 6種 各2,500円(税込)

東京都写真美術館1階に、ミュージアムショップと一体型の新しいスタイルのカフェ“CAFÉ BIS”(カフェ・ビス)がオープンしました。写真集やお目当てのグッズを見つけた後に、お気軽にご利用いただけるスペースです。コーヒー300円ほか。お待ち合わせにもぜひどうぞ。

MENU

川内倫子展 期間限定メニュー!
かきまぜると色の変化が楽しめる、夏にぴったりのイタリアンソーダです。(7/16まで)



- ホットコーヒー 300円 □カフェラテ 360円
紅茶 300円 □オレンジジュース 400円(すべて税込)等

営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)
CAFÉ BISの営業時間は 11:00-18:00(ラストオーダー17:30)

友の会 Support

展覧会のご招待・割引、1階ホールの上映映画や関連施設の割引など特典を多数ご用意して、皆様のご入会をお待ちしております。

年会費

個人会員 2,000円
家族会員(同伴者1名まで) 3,000円
シルバー会員(65歳以上の方) 1,000円

※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
※会員証の有効期限は入会から1年間(翌年同月末日まで)
※詳細は当美術館までお問い合わせください。Tel.03-3280-0099(開館時間中)

Table with columns: 友の会特典, 特典内容. Includes details on exhibition discounts, membership fees, and other benefits.

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- List of corporate members including: 特別賛助会員 (キヤノン, 資生堂, ニコン), 特別支援会員 (キタムラ, キヤノンマーケティングジャパン, 大日本印刷, etc.), and 支援会員 (I&S BBDO, アサツー ディ・ケイ, etc.).

(株)=株式会社、(有)=有限会社、(社)=社団法人、(学)=学校法人

(平成24年5月現在・五十音順)